

2025 年 8 月 3 日（聖霊降臨後第 8 主日・特定 13、C 年）

牧師メッセージ

「頭の中は私でいっぱい！」

（ルカによる福音書12:13-21）

司祭ヨセフ太田信三

ある人が、遺産のことで自分の兄弟を説得してくれ、とイエスに願いました。この人は、遺産のことが頭から離れないのでしょう。財産のことは、自分の生活、食べていけるかどうかということと直結する、非常に切実な心配事、命に関わる問題と言えるでしょう。この種の思い煩いは、生きている限り私たち誰にでもあるものです。つまり、イエスの前にいるのは、私たちと同じ心配事で一杯の人間なのです。この人に向かってイエスは語り始めます。「あらゆる食欲に気をつけ、用心しなさい。有り余るほどの物を持っていても、人の命は財産にはよらないからである。」

イエスは富や財産そのものを否定しているわけではありません。「食欲に気をつけなさい」と言われたのです。「食欲」とは、飽くことなく欲し続けることで、食欲の行き着くところは、富や財産を拝むことです。これさえあれば生きていける、神など必要ないと信じることです。だからこそイエスは、遺産のことで頭が一杯の彼に、食欲に陥った「愚か者」のたとえを語りました。

たとえに登場するのは、土地が大豊作に恵まれた金持ちです。この金持ちのセリフを原文で見ると、一人称のオンパレードです。直訳はこうです。「私の実りを、私が集めるために、私は何をすべきか。」「私の倉を私は壊し、より大きいものを私は建て、そこにすべての麦と私の良い物を私は集める。」このように、彼の頭のなかは「私」で一杯です。こうなってしまうと、他者も神も入り込む隙間はありません。神はこの人間を「愚かな者」と呼びます。彼は財産を死によって没収されることも、それが「一体誰のものになるのか」も知らぬまま、偶像を両手に抱えながら、安心を手に入れたと浮かれているからです。イエスはこの人を、「神のために豊かにならない者」と言います。豊かさを私のためだけに留め、私のためだけに用いる生き方は、神から厳しく非難されます。

先週の福音は「主の祈り」でした。主の祈りの主語は「私たち」です。イエスは日々、「私たち」と祈りなさいと教えられたのです。私たち人間はすぐ、私に支配されてしまうからです。いつも「私たち」という主語で祈り続けなさいとイエスが教えたのは、それが「神の前で豊か」にされる生き方だからです。「すべてのものは主の賜物」であることを忘れず、「私たち」を主語に生きることができますように。